

～日刊カーゴ 2018 年 1 月 29 日記事抜粋～

## ペガサスグローバル 越境 EC 分野の営業強化 今春 EC 事業部門新設へ

ペガサスグローバルエクスプレスは、国際一貫輸送サービス「PEGASUS MY CHOICE (ペガサス・マイチョイス)」で、越境 E コマース (EC) 分野への営業を強化している。同社は複数のエクスプレス事業者や国際物流事業者と提携しており、同サービスは納期や仕向地などの情報から、同社が最適な輸送モードを選択して荷主に提案する。

主に国際宅配、海上・航空輸送、食品・書籍配送を対象としていたが、一昨年に越境 EC もラインアップに加えた。

同社の親会社のカンダホールディングス (HD) は今春、ペガサスに EC 事業部門を新設し、グループ全体で越境 EC 事業に積極的に取り組む考えだ。

ペガサス・マイチョイスは、スモールパッケージから重量 200～300 キロまで、あらゆる貨物に対応する。一般的な国際フォワーディングとエクスプレス、クーリエなどを網羅した同社独自のサービスで、「さまざまなラインアップを持っており、荷主のニーズに合わせて最適な輸送モードの提案を行うもの」(越境 EC を担当するペガサス国際営業本部営業 2 部の伊藤義雄課長、以下同)。

国際宅配輸送に付帯する梱包や書類作成などの業務も提供するのが強みだ。「他社のネットワークを活用して輸送するので、差別化を図るため梱包には力を入れていて、強度や梱包の仕方にはノウハウがある。ダメージの確率は低く、インテグレーターが断るような特殊貨物の梱包も可能だ」。

カンダ HD のグループ各社と連携することで、越境 EC に関わる倉庫保管や、EC モールとのシステム連携も合わせて提供する。伊藤課長は「倉庫、システム連携、輸送の越境 EC に関わる物流面の『フルフィルメント』を用意している。物流を全てお任せいただくことで、(越境 EC モールの出店者である) セラーは、商品の販売に注力していただける」と話す。

越境 EC の最大市場である中国や、香港・台湾向けでは、別に越境 EC サービス「ペガサスホームダイレクト」も提供している。中国の越境 EC 専門業者「EC フォワードナー」で現地の大手の一角、逡四方速逡 (4PX エクスプレス) と提携し、現地での通関・配送も包括し

た BTOC の国際一貫輸送サービスだ。中国向け越境 EC の輸送方式には、(1) 郵便通関となる EMS (国際郵便) (2) 簡易通関で行郵税の適用となる個人向け一般小口貨物 (3) 越境 EC 新税の対象となる「保税販売」と「直郵」があるが、同サービスは 4 方式とも利用できるうえに、中国全土に送付できる。

国内では、越境 EC の運営会社や関連サービス会社と足並みをそろえて、事業拡大を図る。ペガサスは昨年末、ファッション・雑貨の卸・仕入れの EC モール「スーパーデリバリー」を展開するラクーンと提携した。「スーパーデリバリー」の越境 EC 版である「SD EXPORT」で、ペガサス・マイチョイスを利用可能とした。

また、送り状とインボイスの自動発行システム「SHIP&CO (シップ&コー)」を提供するベルトランと提携予定。同システムは、京都本社で弁当箱の輸出販売を展開する同社が、新事業として始めた。ペガサスも API (APPLICATION PROGRAMMING INTERFACE) 連携することで、同システムを利用する EC セラーは簡単にペガサス・マイチョイスのサービスを選択できる。